

# 六代目四楽と税

を考える

知っておきたい税金の常識

六代目 三遊亭四楽  
國學院大學教授  
税理士 小宮山 隆 共著



法令出版

企画・編集 タックス・コム

# 税と六代目四楽

を考える

知っておきたい税金の常識

六代目

三遊亭四楽

國學院大學教授  
税理士

小宮山 隆 共著



法令出版

企画・編集 タックス・コ

## はしがき

今年（2010年）3月に、三遊亭楽太郎改め六代目「三遊亭円楽」を襲名させていただきました。

円楽襲名披露では大勢の皆さんにお集まりいただき、また襲名披露公演にも多くの皆様にお運びをいただき、暖かい言葉もたくさん頂戴しております。

「円楽」はまだ師匠の名ですから、しばらくは六代目と呼んでください。のりしろとしての「円楽太郎」から「太郎」が取れていって「円楽」になり、六代目も「良いね」と言ってもらえるよう、「二門」の発展、また落語界の発展のために、たとえみつともなくても死ぬまで落語をやっていることと思っております。どうぞ、御鼻頂のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、私の「円楽」襲名を追い掛けるように、約30年交流を続けている小宮山隆氏が今年4月に大学教授（税務会計担当）に就任しました。

お互いに今年が節目の年、しかも同じ歳、これも神様・仏様のなさったことと受け止め、また一方では政権が変わり、税制も大きく変わっていくようですから、二人で「税を考える」ことになった次第です。

本書は、より良い社会、「安全・安心で、希望の持てる社会」の実現のために、私たち国民が選択すべき税制、あるべき税制について、あれこれ考えております。

枝が一つ違うだけで答えが違ってきます。是非とも、お読みいただき、私たちと一緒にこれからの税制と社会のありようを考えていただければ幸いに思います。

平成22年6月

円樂襲名後、初の上梓に当たり

六代目・三遊亭円樂

おしはち

## 序 文

本書は、新しい政府（民主党政権）の「税制改革」に対する納税者・国民の素朴な「疑問」について、税の制度や執行の面における「ものの見方・考え方」（税法の理念や原理原則、税務行政）を紹介しつつ、広報的に大胆な解説を試みています。これまでの解説本とは違う、新しいタイプの解説本になるよう心掛けています。

本書は、四部構成で、第一部では「税のルール」を、第二部では「あるべき税制」を、第三部では「税の負担」を、第四部では「税務行政」を、納税者・国民の目線から考えています。

各部の構成内容は、以下のようになっています。

第一部「税のルール」では、まず、第一章で「税金をなぜ払うのか」を考え、次に、第二章で「税金の役割は何か」（四つの機能）、第三章で「課税の根拠はどこにあるのか」（租税法律主義）、第四章で「公平とは何か」（租税公平主義）を取り上げ、税金の意義やその基本原則を考えています。

第二部「あるべき税制」では、まず、第一章で「あるべき税制はどんな姿か」（税制の基本理念）を考え、次に、第二章で「所得税に頼るべきか」（所得税改革の方向性）、第三章で「法人税は重過ぎるか」（法人税改革の方向性）、第四章で「消費税は期待に応えられるか」（消費税改革の方向性）を取り上げ、あるべき税制を物差しにして、新しい政府による税制改革を考えています。

第三部「税の負担」では、まず、第一章で「負担能力とは何か」（租税負担率や税の仕組みへの不満）を



考え、第二章で「税金にも格差があるか」（税の仕組みの問題点）、第三章で「税の優遇措置が多過ぎないか」（特に租税特別措置法の問題点）、第四章で「税金は漏れなく申告されているか」（クロヨンやごまかしなどの実態）を取り上げ、現行の各税法における税負担の問題点を考えています。

第四部「税務行政」では、まず、第一章で「申告納税制度の主役は誰か」（申告納税制度の意義）を考え、次に、第二章で「納税者の秘密は守られているか」（税務職員などの守秘義務）、第三章で「税法の解釈を誰に聞か」（税務当局の解釈の意味）、第四章で「納税者番号にはどの番号がよいか」（納税者番号制度の意味）を取り上げ、税務行政（納税環境の整備）を考えています。

編集作業においては、大胆な解説を試みるために、(株)タックス・コム の浅野宗玄社長及び清水孝一編集局長から適切なアドバイスを沢山いただきました。また、法令出版(株)の鎌田順雄取締役からも貴重なご意見をいただきました。厚く御礼申し上げます。

今回、大変に重苦しい税金をめぐる問題について、わざわざ新しいタイプの解説本にまとめたのは、学生から社会人まで幅広く一般の方々にお読みいただき、日本の「税制はこれでいいのか」「これからの税制はかくあるべきだ」という議論を盛り上げていただきたいという想いがございます。この本が、そのきっかけになれば幸いに思います。

平成22年6月

國學院大學教授・税理士

小宮山 隆

## もくじ

### ブローグ 納税者の意識は変わるか

- ❖ 税に対する意識——三つのタイプ……………17
- ❖ 「税の使いみち」と「税の仕組み」を分けて考える……………20
- ❖ 「議論があいまいで変化せず」では残念……………21
- ❖ 政治や政府への不平や不満が議論の出発点……………22
- ❖ 税金の議論は決して難しくはない……………23

### 第一部「税のルール」を考える

#### 第一章 税金をなぜ払うのか

- ❖ 税金とは何か……………27
- ❖ 納税者・国民目線からみた税金……………30
- ❖ 公共サービスの水準と税の拠出水準の選択……………31
- ❖ 国民の義務だから税金を払うだけでは寂しい……………32

❖ 税金教室での説明ぶり	33
--------------	----

## 第二章 税金の役割は何か

❖ 公共サービスを提供するための資金調達機能	36
❖ 税収だけでは公共サービス提供財源を賄えない	38
❖ 税金の種類は多い	39
❖ 税金ではないがそれに似たものがある	42
❖ 所得再分配機能	43
❖ 景気調整機能	44
❖ 政策目的達成機能	45

## 第三章 課税の根拠はどこにあるのか

❖ 課税の根拠に関する考え方	48
❖ 憲法は会費説だと思う	49
❖ 納税の義務の前提として、権利がある	50
❖ 課税の根拠は憲法に定めがある——租税法律主義	52
❖ 課税の諸条件は法定されていない——課税要件法定主義	53
❖ 課税の諸条件は明確でなければならぬ——課税要件明確主義	55
❖ 課税されるべき人を見逃してはいけない——合法性の原則	56



❖ 遡って過去の取引を課税することにはいけない——遡及立法の禁止……………57

## 第四章 公平とは何か……………59

❖ 税負担は公平に配分されなければならない——租税公平主義……………60

❖ 「公平」と「平等」には違いがある……………61

❖ 担税力に即して公平に課税されなければならない——租税公平主義……………62

❖ 担税力の基準は三つある……………65

❖ 国民は、税の執行において平等に取り扱われなければならない——租税公平主義……………68

❖ 公平な課税と執行のために、国民も守るべきことがある……………70

## 第二部 「あるべき税制」を考える

### 第一章 あるべき税制はどんな姿か……………75

❖ 新しい政府は、あるべき税制の姿を示さない……………76

❖ これからの税制の基本理念は「公平・透明・納得」……………78

❖ 「公平・透明・納得」の真の意味は何か……………81

❖ 「あるべき税制」は、これまでの政府と同じもの……………84

❖ 働き手世代の皆さんへ……………87

## 第二章 所得税に頼るべきか

- ❖ 税制は、所得税中心主義がいい
- ❖ 所得税の仕組み―所得税のあり方を考えるに当たり
- ❖ まず、所得税の所得再分配機能の回復
- ❖ 新しい政府による所得税改革の方向性
- ❖ 特に、所得控除から税額控除や手当等への移行を優先
- ❖ 近い将来、給与所得控除等を見直す
- ❖ これまでの政府により示されていた所得税改革の方向性
- ❖ これまでの政府が示していた所得税改革項目
- ❖ 所得税の見直しのスピードを上げて欲しい

## 第三章 法人税は重過ぎるか

- ❖ 法人とは何か
- ❖ 法人は株主の集まりか
- ❖ 法人税は誰が負担しているのか
- ❖ 法人税の仕組み―法人税のあり方を考えるに当たり
- ❖ 一般的に、法人税の負担水準は高くない
- ❖ 新しい政府による法人税改革の方向性

- ❖ 近い将来、中小法人の軽減税率の引下げ……………117
- ❖ 個人事業主との課税の不均衡の是正……………118
- ❖ これまでの政府により示されていた法人税改革の方向性……………120

## 第四章 消費税は期待に応えられるか……………122

- ❖ 消費税収を増やす方が、所得税負担を増やすよりいい……………124
- ❖ 消費税の仕組み―消費税のあり方を考えるに当たり……………126
- ❖ 社会保障の目的税化が望ましいか……………127
- ❖ 新しい政府による消費税改革の方向性……………128
- ❖ 消費税は低い所得者に重くなる税金なのか……………129
- ❖ 食料品などを非課税にすべきか……………132
- ❖ 軽減税率・ゼロ税率……………133
- ❖ インボイス制度……………135
- ❖ 預かった消費税を事業者の儲けにしているのか……………136
- ❖ 消費税は値切れない……………137
- ❖ タックス・オン・タックスがあるか……………139
- ❖ これまでの政府により示されていた消費税改革の方向性……………140

## 第三部「税の負担」を考える

### 第一章 負担能力とは何か

- ❖ 国民の負担能力と限界……………148
- ❖ 直間比率の見直しが必要……………151
- ❖ 負担能力は「支払能力」と「負担力」に分解できる……………153
- ❖ 負担力を考慮するため、所得を10種類に分けている……………154
- ❖ 所得の計算方法の共通性も考慮……………155
- ❖ 税の負担能力に応じた課税のために所得を「総合」……………157
- ❖ 分離課税になっている所得がある……………159
- ❖ 所得の発生態様にも配慮が必要……………160

### 第二章 税金にも格差があるか

- ❖ パート収入と所得税の負担水準……………165
- ❖ 所得税の負担を求められない所得水準……………168
- ❖ 共稼ぎ夫婦と片稼ぎ夫婦……………169
- ❖ 個人事業者とサラリーマン……………172
- ❖ 個人事業者間……………175
- ❖ 法人企業と個人企業……………176

❖ 法人成りを格差が後押し

180

### 第三章 税の優遇措置が多過ぎないか

182

❖ 憲法と租税特別措置法

183

❖ 公共政策配慮のあり方

184

❖ 昔見直されたことがある

185

❖ 新しい政府による見直し

186

❖ 利子が一律分離課税であること

189

❖ 配当が分離課税であること

190

❖ 株式の譲渡益が分離課税であること

192

❖ 社会保険診療報酬の課税に特権があること

194

### 第四章 税金は漏れなく申告されてゐるか

196

❖ クロヨン

197

❖ アングラ経済は大きいか

199

❖ 節税・租税回避・脱税

201

❖ サラリーマンはガラス張りか

204

❖ 個人営業にごまかしが多いのか

208

❖ 法人企業もごまかしが多いのか

209

❖ 漏れなく正しい申告の意思表示	210
------------------	-----

## 第四部 「税務行政」を考える

第一章 申告納税制度の主役は誰か	217
------------------	-----

❖ 申告納税制度は最も民主的だが、誠実さが命	218
❖ 青色申告制度のねらいは申告納税制度の定着	221
❖ 源泉徴収制度は、税金の徴収方法の一つ	222
❖ 納税環境の整備で、執行面の改善を図る	226
❖ 関係民間団体	229

第二章 納税者の秘密は守られているか	232
--------------------	-----

❖ 税務職員の守秘義務と納税者の秘密	233
❖ 税務署が持っている情報	236
❖ 税務署も情報公開を求められることがある	238
❖ 相続税法の規定で贈与税の申告内容を開示することがある	240
❖ 税理士の守秘義務	241
❖ 脱税報道と守秘義務	243



### 第三章 税法の解釈を誰に聞くか

- ❖ 課税当局は法律通り賦課・徴収を行うか
- ❖ 通達でもハッキリしないときどうするか
- ❖ いわゆるお役所本は公の見解ではない
- ❖ 解説本を理由にしても主張は通らない
- ❖ 税務署に相談するか
- ❖ 法令解釈が間違っていると言われたら
- ❖ それでも納得できないときはどうしたらよいか

### 第四章 納税者番号にはどの番号がよいか

- ❖ 社会保障・税共通の番号制度の導入のねらい
- ❖ 共通の番号制度のイメージ
- ❖ 納税者番号として利用する場合のイメージ
- ❖ 納税者番号に求められること
- ❖ 現在ある番号制度のどれがよいか
- ❖ 社会保障・税共通の番号制度は、納税者番号制度と同じものか
- ❖ 本来の「納税者番号制度」のあり方

## エビローグ どんな未来像を選択するか

❖ 平成22年度予算

❖ 社会保障予算

❖ 「税負担の水準」と「負担のあり方」を分けた議論が必要

❖ 国民の選択が問われている

## 資料 編 (税制調査会専門家委員会資料)

表紙デザイン 大倉 暁雄  
イラスト・カット 永野 暢子

280

277 275 275 274 273

## ☆ 消費税は低い所得者に重くなる税金なのか

**師匠** 消費税は、お年寄りなど所得の低い人にとって重い負担になるので、低所得者に冷たいという逆進性の問題がありますね。

**教授** そうです。所得税は累進課税を採用しており、大きい所得には高い税率を適用し、小さい所得は課税しないか軽減するから良いが、これに比べて、間接税は単一税率を採用しているため所得の大小に関係なく、低い所得に重い課税になるので逆進性があり好ましくないという考え方です。

消費税の問題点としてこの逆進性が指摘されますが、それは、低所得者ほど所得に占める消費税負担の割合が高くなるから、公平の観点からみて問題があるということです。

ところが、中立の観点から見ると、何人にも等しい税率で消費税負担を求めますから、大変に中立性が高く優れた税であるということになります。

**師匠** ところで、お年寄りなど所得の低い人には、様々な税の特典があり、所得課税でも資産課税でも優遇を受けており、また医療やシルバーパスなど手厚い福祉があり、消費課税面でも実は優位な立場にあるという意見もあります。

**教授** これに対して、働き手世代は、資産形成の途中であり、所得課税や消費課税の面には何ら特典もなく、あるのは若さだけといった意見があります。働き手世代としては、消費税に逆進性があるという理屈はわかりますが、抵抗を感じている人もいます。

税体系全体における税負担を考慮すれば、お年寄りだからと特別扱いしないで、負担を求められるところではそれなりの負担を求めて差し支えないと思います。

師匠      しかし、逆進性対策を講じないことには、国民の理解は得られません。

教授      逆進性対策には、大きく二つの方法があります。一つは……

## ☆ 納税者番号に求められること

**教授** 財務省提出資料によると、税務面で利用する「番号」が最低限満たすべき要件を4つ掲げています。まず、一つ目は、「悉皆的に付番されていること」を掲げています。

**師匠** これで課税の公平を確保できるようにしたいわけですね。

**教授** そうです。二つ目は、「一人一番号が確保されていること」です。これは、納税者の住所・氏名の変更が速やかに把握され、一の納税者に対し同じ一つの番号が付与されている関係が確保されているということの意味しています。

**師匠** 私で言えば、個人でも落語家でも同じ一つの番号でないと、名寄せや突合が効率的にしかも正確に行えないということです。

**教授** 三つ目は、「民―民―官の関係で利用できること」です。これは、納税者本人（民）が取引相手方（民）に番号を告知し、告知を受けた取引相手方（民）がその番号を記入した法定調書を税務当局（官）に提出するという具合に利用できる番号であるということの意味しています。

**師匠** 取引の相手方であるテレビ局などに、私の番号をいつも告知するわけですが、そのことも「民―民―官の関係」に含まれているわけですね。

**教授** そのことは、四つ目として、独立させ「目で見える番号であること」として掲げています。つまり、取引相手方（第三者）が、法定調書に記載すべき納税者本人の番号を容易に確認できるようにすることを要請しているわけです。